

◎ 彙報

第四九回原爆文学研究会

国際会議 核・原爆と表象／文学——原爆文学の彼方へ——

○日時 二〇一五年二月一二日(土)、一三日(日)

○会場 九州大学西新プラザ大会議室

○主催 科学研究費(基盤B)「核・原爆と表象／文学に関する総合的研究」(代表川口隆行)

【一日目】

○開会の辞

川口 隆行

○セッション1 移動する原爆—文学

司会 中谷 いずみ

報告1 「投下する」側の「記憶」

——2015年・日本からの再検証

島村 輝

報告2 核時代の英米文学者

——Hermann Hagedorn, *The Bomb that Fell on America* (1946) の日本語訳 (1950) にこけて 齋藤 一

報告3 ジェラルド・ウィゼナーの『ヒロシマ・プギ』

——大田洋子と「ネイティブ・サヴァイヴァンズ」

○特別講演

松永 京子

○大海に浮かぶ夢と放射能の島々

コメンテーター 吉田 裕 中野 和典

○シャマン・ラポガン

司会 李 文茹

○高野 吾朗

コメンテーター 高野 吾朗

【二日目】

司会 楠田 剛士

○セッション2 原爆を視る

野坂 昭雄

○原爆写真というメディアと(詩)

野坂 昭雄

○野坂 昭雄

野坂 昭雄

○野坂 昭雄

野坂 昭雄

報告2 「キノコ雲」と隔たりのある眼差し

——戦後日本映画史における(原爆)の利用法

紅野 謙介

報告3

「核の不安」から「核の無関心」へ

——アメリカのポピュラーカルチャーにおける核のイメージの変容

マイケル・ゴーマン

コメンテーター 岡村 幸宣 鷺谷 花

○セッション3 冷戦文化と核

司会 川口 隆行

報告1 核と自由

——1960-1970年代の日米における公民権／反核／

反核運動 アン・シエリフ

報告2

〈核のない平和〉と〈核による平和〉

——冷戦期日本の平和論と安全保障論から

山本 昭宏

報告3 コリア核マフィアの始まり

——雑誌『学生科学』(1965)を中心に

コメンテーター 市川 浩 高 榮蘭

長野 秀樹

○閉会の辞

第五〇回原爆文学研究会

○日時 二〇一六年五月一四日(土)・一五日(日)

○会場 山口大学学生会館第2集会室

【一日目】

書評1 岡村幸宣『原爆の図』全国巡回

書評2 村上陽子『出来事の残響』 東村 岳史 茶園 梨加

【二日目】

原爆文学研究会総会